



●発行 2022.2.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■4/22-23「再エネのまち」を探访！ 学習会とその意義

理事 高橋 喜宣

2020年に群馬県中之条町とハッ場ダムの視察を計画しましたが、中止とさせていただきます。今年こそ、と2022年4月22日～23日に再度計画することに決めました。

※ただし、まん延防止等の行方を見ながら2月中旬に最終決定の予定。

当 NPO 法人は脱原発の社会を目指し、その具体的な行動として市民発電所を 4ヶ所設置してきました。皆さんに無利息で協力金を出資していただいたお陰です。その利益は脱原発と再エネ普及に使う約束をしました。今回の視察の見学料は当 NPO 法人負担とし、参加費には入れていません。

以下、企画した著者としてその意義と背景をお伝えしたいと思います。

【連日コロナ報道の中、 脱原発と再エネ普及に暗雲漂う】

著者は、連日コロナ報道の中「天災、戦争、パニックによる混乱のどさくさに便乗して、新自由主義経済システムを導入する手法」というショックドクトリンのようなもので、脱原発や再エネに不利な状況に舵が取られていると懸念しています。原発をクリーン電力と位置付ける動きがその一つ。岸文雄総理は年頭記者会見でクリーンエネルギー戦略に触れ、「再エネを始め、水素、小型原子力、核融合など非炭素電源の技術革新・投資強化」と原子力推進するという考えを発表しました。

**「再エネのまち」を探访！
ハッ場ダムはヒーロー？その光と影**

〇学習会のお知らせ
群馬県中之条町は、「再生可能エネルギー推進条例」を制定し、自治体主導の電力会社として、全国初となる「一般財団法人中之条電力」を設立しました。再生可能エネルギーを主電源として、公共施設を中心に電力供給をしています。
中之条電力山本社長の講演後、小水力電力発電所、沢渡温泉第1太陽光発電所、町役場=左写真=を視察します。その後、あやの旅館で源泉100%の温泉も堪能できます。

翌日は、2019年19号台風でヒーローと呼ばれた「ハッ場ダム」とその影になる品木ダムを見学。関車の耶馬溪とも言われる吾妻側沿いの深谷をハイキング（弁当付）する企画をしました。







- 日 時: 2022年4月22日(金)-4月23日(土)
- 出 発: 武蔵小杉駅前 午前8時から
- 参加費: 2万円～2.5万円 最大29名・変動制
(交通費、昼食、夕朝食代込み)
- 申し込み: kawasakisaiene@gmail.com 又はQRコード
お名前、住所・生年月日(保険用)、連絡先明記の上申し込みください

●主 催: NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所
担 当: 田中、高橋 (TEL & ファックス 044-722-6766)





欧州委員会でも、2月2日に原発と天然ガスを地球温暖化抑制につながる「グリーン」な投資先として認定する方針を加盟国に提案。これに対してドイツやオーストラリアが猛反発。日本でもこの「EUタクソノミー」案に反対する署名を立ち上げ、8日目で署名数が16,000筆に達しました。当NPOも賛同団体数316の1団体として反対の声を上げました。

また、太陽光発電パネル設置や、既存住宅の省エネ対応する仕組みを後押しする「再エネ法案」もこの通常国会で成立される方針だったのが、変更になり後回しにされました。

こうした状況だからこそ、学習会を通じ、再エネを再認識していただきたいと思います。

【川崎の自治体電力は、中之条電力に学べ】

川崎市も再エネ課題に向けて「(仮)川崎市地域エネルギー会社」設置を決めました。中心は既存のごみ発電です(※23年度に稼働する「橋処理センター」はもともと計画されていたので広い意味で既存としました)。それに比較して学ぼうと、日本初の自治体電力である群馬県中之条町を視察することにしました。同町は2013年6月「再生可能エネルギーのまち中之条」を宣言し、「再生可能エネルギー推進条例」を制定。更に、メガソーラー3基と小水力発電所1基を新設しました。詳細は2020年4月号のでん太通信に書きましたので省きます。ハッ場ダムについては機会があれば次号に書きたいと思います。ぜひこの1泊2日の視察学習会にご参加ください。

申込先：QRコードまたは

<https://forms.gle/E96QemPHEBGSGuux8>



私も会員です

No.8

今号の【私も会員です】は、特別長編となっております。

「ブルキナファソに魅せられて！」

正会員 永田 真一

私がブルキナファソを知ったのはNPO法人ユーラシアンクラブに所属していたときに、中央アジアのウズベキスタンが主催したナウルーズ(春分の日)に参加した際、アフガニスタン人の理事長セデカさんから一人の青年を紹介されたことに始まります。



ブルキナファソの位置



ウズベキスタンのナウルーズ



駐日ブルキナファソ大使館での贈呈式

ユーラシアンクラブでは、中央アジアの7カ国と音楽や遺跡発掘を中心とした文化交流をしていました。2015年3月に初めて出会ったブルキナファソの青年サワドゴ サイドウ氏から、「私の



国は世界で7番目に貧しい国ですがマリからの難民支援もしている」とお聞きしました。その後ブルキナファソについて調べてみると、港の無い内陸国でサヘル地区南部に位置する灼熱の国だと分かってきました。駐日大使館を通じ、マリ難民に当時関係していた天草大王という地鶏を使ったレトルトカレー1000食を送ることにしました。ウビダ大使とお付き合いしているうちに、「支援でなくブルキナファソの自立を考えてくれないか」と打診されました。そこから苦難の道が始まります。

先ずは大阪に本社のある商社の課長とシアバターと大豆の調査に出かけました。残念ながら商社の買い付けには結びつきませんでした。大豆栽培・商品開発に熱意を持った現地社長と独自に話し合ううちに、組合方式で大豆栽培農家を増やし鳥の餌くらいしか需要の無かった大豆を国民食まで育て上げる構想にたどり着きました。1000人の農家に種大豆を配り収穫された大豆を全量買い上げる態勢を作りました。そのために1200万円の融資をすることにしました。

次にサウドゴ氏が希望したホロホロ鳥のファームを作る事業です。ジニアレ県のドーレ村村長から土地を無償でお借りし、伝統的な建物を模した産卵所や飼育場を建設しました。また、ストレスを与えないための十分な放鳥スペースを確保しました。孵化器も作り雛を購入して事業をスタートさせましたが、獣医の不手際やかつてない大洪水に見舞われたりしていまだに順調な出荷まで至っていません。

この時点でブルキナファソの王様と会う機会が訪れ、初対面で長時間話し合いました。農業中心の国にすることが、テロを無くし平和で食べることに困らない唯一無比の国づくりだということで意見が合い、その後親しくお付き合いさせてもらうことになります。

養鶏を国中に広げるため、農業専門学校を開設し、昨年2021年12月に1期生44名の卒業式を終えることが出来ました。国内で最も優秀な先生にお願いし、1期生の授業料は私が負担しました。3名の成績優秀者に創業資金を貸し出し5年後までに返済してもらい、そのお金を次の卒業生に貸付、資金が循環する仕組みです。男尊女卑の国を改めさせるため1人は女性にしました。



大豆農場



ほろほろ鳥ファーム



王様からのメダル授与

そのほか、6次産業を目指し、生産（1次）、加工（2次）、流通（3次）の最後の分野としてレストランも開業しました。ブルキナファソでは2年に一度フェスパコというアフリカ映画祭が開催されます。映画の国にふさわしい文化も取り入れたいと考えています。

コロナ禍、手洗いの習慣を付けるため5県に手洗器を寄付したり、井戸を掘削したり、養魚場を作っていることが認めら、12月11日の独立記念日に叙勲されるという榮譽に浴すことになりま



した。シェヴァリエという勲章を大統領の署名をもっていただくことができ、王様からメダルを授与されました。

期待に応えるため、今後必ず必要になる、人材育成のため海外で研修している人達が帰国した際に居場所として使える建物を建設する予定です。ここで起業していただき、農業省や私たちの会社と一緒に情報交換できる場にします。そのためのフリースペースや研修所も設けブルキナファソ農業の中心施設にしたいと思っています。2月中には土地購入手続に入ります。

いままでたくさんの方に支援いただき、私も財産のほとんどを使ってしまいました。妻の理解があってこそこの道のりでした。ブルキナファソに骨を埋める覚悟でいますので、支援に協力できるよ、という方はお声をかけてください。一緒に西アフリカに行きましょう！

《追伸》

東京新聞1月29日の夕刊1面に、私のブルキナファソでの活動が掲載される予定で取材も終え、内容もほぼ決まったところに1月23日兵士のクーデターが起きました。現地とは25日夜やっと連絡が取れました。カボレ大統領は報道通り軍に拘束されています。前大統領コンパオレの時も自身の任期を延ばす法律を作ろうとしましたが、市民のデモにより国外逃亡、選挙でカボレ氏が選ばれました。

ここ何年か、対IS掃討に対し軍の被害が大きくなっていました。昨年も国境周辺で大きな被害が出ています。危険エリアに踏み込んで活動を続けていましたがリスクは常に指摘されていました。2月13日から3月16日迄の予定で1年間のVISA、e-ticket、PCR検査の予約もとりましたが国境封鎖、コロナの発生等で延期せざるを得ない状況です。このような事態になっていますが引き続き活動を継続し平和で安心して暮らせる国づくりのお手伝いできればと思います。(1/26追記)

第11回「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」集会は、
コロナ対策のため **リモート集会に変更** となりました。

3月13日(日) メイン集会：13時～15時予定 ※Youtube 配信
講演：河合弘之弁護士、青木美希さん(ジャーナリスト)

【編集後記】

川崎市は2022年度の当初予算案を発表。『脱炭素化』関連事業に約223億円を計上し、「橋処理センター」の建設に約198億円、(新)「地域エネルギー会社」の設立準備に約1000万円、(新)プラごみの一括回収に向けた事業に約2370万円等を充てる。

市民を置いてけぼりにしない政策をすすめてほしいと願います。(加藤伸子)

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

でん太通信は、ほぼ隔月15日に発行しています。

